

# 令和2年度 大田区立東調布中学校 自己評価 報告書

## ○ 本校の概要

- ◆学校規模 ・全校生徒数 445名 ・学級数 通常学級12学級、特別支援学級3学級 ・教員数29名(校長・副校長・養護教諭含む)
- ◆学校の特徴 ①生徒会とJRC(青少年赤十字)が中心となり、ボランティア活動が盛んである。  
②部活動については、運動系が10部、文化系が6部、合計16部活と数多く開設している。  
特色ある部活動としては琴・三味線部、華道部、チアリーディング部等がある。運動部も区内上位の部活が多い。  
③学校支援本部と学区5町会が学校に対して大変協力的で、日常的に緑化活動が行われている。

## ○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
					評価	人数
ブ 的 ラ ン 生 1 き る 未 来 供 社 の 会 育 を 創 造	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	生徒アンケートで 「人のいやがることをしたり、言ったりしていない。」 の肯定的回答の割合	4: 90% 以上	・「人のいやがることをしたり、言ったりしていない」の肯定的な回答した生徒の割合は、90.7%であり、成果評価は4である。その他の生徒アンケート項目の肯定率は ①「授業で配布された資料はまとめている」→ 90.7% ②「授業で学習したことは理解できている」→ 85.6% となっている。昨年度と比較するとこの3つの項目をすべて1～4%程度上回り、概ね良好と言える。学年別で経年変化をみても3年、2年共に前年度を上回り指導の成果が数値として顕著に表れている。 ・中学生の「税についての作文」において5名の生徒作品が「東京局税局長賞」などの賞を受けた。生徒の租税に対する関心が高いことが認められ、学校が顕著な協力校として表彰されるなど学習成果が表れている。 ・「人権啓発作品展」のポスターや「地球にやさしいまちづくり作品展」のポスターにおいて生徒作品が表彰され、その中の1つは優秀作品として「大田区報」に掲載されるなど成果が表れている。美術の作品においては日常的に校内の廊下に掲示することで、生徒の興味関心を高めるだけでなく、来校者が自然に鑑賞できる環境を整えている。 生徒回答者数 442人	A	10
			3: 80% 以上		B	2
			2: 70% 以上		C	
			1: 70% 未満		D	
プ ラ ン 2 学 力 の 向 上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	生徒アンケートで 「授業はわかりやすい。」 の肯定的回答の割合	4: 90% 以上	・「授業がわかりやすい」に肯定的な回答した生徒の割合は、88.0%であり、成果評価は3であるが、昨年度より3.4%上回っている。英語と数学の授業は全学年少人数展開で授業を行い、生徒一人一人の学力レベルに合わせた学習環境を整え、きめ細かい指導に努めている。 ・放課後補習教室や土曜補習教室については参加人数を増やして、基礎学力の定着を図っている。英語検定合格に向けて今まで以上に学習環境を整える。 ・ICT環境整備に伴い利用可能となる学習コンテンツの家庭学習用教材等としての活用を促進する。具体的には教員がより有効的に指導できるようにするための校内研修の実施、また、個別の課題及びその課題に対応した学習コンテンツを伝え、家庭と連携して生徒が自主的・計画的に学習することを促す。 生徒回答者数 442人	A	12
			3: 80% 以上		B	
			2: 70% 以上		C	
			1: 70% 未満		D	
プ ラ ン 3 豊 か な 心 の 育 成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	生徒アンケートで 「学校のきまりや社会のルールを守ってる。」 の肯定的回答の割合	4: 90% 以上	・「きまりを守る」に肯定的な回答をした生徒は、94.8%と昨年度を2.1%上回り、成果評価は4となる。その他の生徒アンケート項目の肯定率では ①「あいさつをきちんとしている」→91.0% ②「身なりが整っている」→92.8% ③「学校生活は楽しい」→89.4% 昨年度は90%を超える項目はなかったが、全ての項目で昨年度を上回り、指導の成果が数値に表れている。 ・毎週金曜日には管理職、スクールカウンセラー、各学年の教員、養護の先生、登校支援員で生徒連絡相談部会を開いている。問題行動、不登校問題等にかかわる生徒について情報交換を行い、早期発見、早期対応に努めている。不登校生徒については年々減少し、顕著に成果が表れている。 ・「道徳」が教科化され、昨年度に引き続き授業内容や評価の仕方等について計画的に校内研修会を開いて、指導の充実に努めている。意見交流会を活用して、地域全体で自尊感情の高揚につなげられるよう取り組む。 生徒回答者数 442人	A	11
			3: 80% 以上		B	1
			2: 60% 以上		C	
			1: 60% 未満		D	
プ ラ ン 4 健 康 の 体 増 進 の 向	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	生徒アンケートで 「前年度より体力、持久力などが向上した。」 の肯定的回答の割合	4: 80% 以上	・「前年度より体力が向上した」に肯定的な回答をした生徒は、67.7%であり昨年度に比べ5.7%減少し、成果評価は2である。コロナウイルス感染拡大予防対策のため、自粛期間が続く中で運動会が実施できないだけでなく、部活動についてもかなりの制限を受けたことが一番の要因と考えている。生徒の体力の衰えと大会等が中止になり精神的な落ち込みについての支援が課題である。 ・授業や委員会活動等を通して「食育」について指導し、食生活についての意識を高めている。例えば「和食の日」に合わせて「出汁」や和食の栄養バランスについて栄養士と食育リーダー担当による授業を実施し、生徒に興味関心を持たせている。昨年度に引き続き処分する牛乳や残菜を減らしていくことが課題である。 生徒回答者数 442人	A	7
			3: 70% 以上		B	5
			2: 60% 以上		C	
			1: 60% 未満		D	
プ ラ ン 5 環 境 づ 魅 く 力 あ る 教	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	保護者アンケートで 「学校は学力の定着のために授業を工夫している。」 の肯定的回答の割合	4: 80% 以上	・「教師は授業改善に努めている」に肯定的な回答をした保護者は86.6%であり成果評価は4である。しかしながら、この設問については「わからない」の回答数を除いての数値となり、全体数(分母数)は他の項目より少ない。また、今年度はコロナウイルス感染拡大予防対策の影響により、学校公開授業が実施できない状況であるため、昨年度との比較はできないと考えている。 ・コロナ渦のため校外での研修を受けることが制限されているが、校内では、区の学習効果測定の結果を分析し、各教科において授業改善プランをたて、その後の授業に取り入れ、わかる授業実現に努めた。 ・今年度で3年目となったハイパーQUと学校生活調査(メンタルヘルスチェック)と併用し、きめ細かく生徒の様子を伺うことができています。学校外や家庭での個人で抱えている問題についても少しずつ拾えるようになり、外部機関につなげるなど早期対応することができた。 保護者回答者数 396人	A	12
			3: 70% 以上		B	
			2: 60% 以上		C	
			1: 60% 未満		D	
庭 ブ ラ ン 6 地 域 が 一 体 と な る 家	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	保護者アンケートで 「学校は教育活動の推進について地域の協力を得ている。」 の肯定的回答の割合	4: 80% 以上	・「学校は地域との連携に努めている」に肯定的に回答した保護者は、86.0%であり成果評価は4である。上記項目同様に、「わからない」の回答数を除いての数値となっている。また、今年度はコロナウイルス感染拡大予防対策の影響により、運動会、東嶺祭などの行事が実施されない状況であるため、昨年度との比較はできないと考えている。 ・例年学校支援地域本部と連携して行う職業人講演会については実施できなかったが、緑化活動については、G組の花壇作りやJRCと一般ボランティアを募集した「花植え隊」など、協働する活動ができ、生徒のボランティアに対する意欲が高まった。 ・PTA活動についてもかなりの制限を受けたが、PTA広報誌「教職員紹介号」については早い段階で発刊でき、保護者からも好評であった。コロナ渦でのPTA活動については今後の課題である。 保護者回答者数 396人	A	11
			3: 70% 以上		B	
			2: 60% 以上		C	
			1: 60% 未満		D	1